



授業研究 道北圏域 大会

2017/12/20

より主体的・対話的で深い学びへ

学力向上のために

「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法改善のための実践研究（SCRUM）道北圏域研究大会 北海道旭川東高等学校

去る12月20日（水）本校会場に、上記研究大会が開催されました。次期学習指導要領を踏まえ、教科等の本質的な学びとは何か、学習及び指導方法の改善を目標に、平成28年度から2年間研究を行っており、今年度が2年目です。

基調講演 天使大学教授 鹿内信善先生

「主体的で対話的で深い学びを引き出す看図アプローチ」というテーマで講演いただきました。協同学習の手法をご紹介いただき、手法だけをまねても深い学びは実現しないことや、看図アプローチをグループで実際に取り組んでみることによって、深く考える学びとは何か、をわかりやすく教えていただきました。

授業公開

国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、保健と、7科目において授業公開を行いました。

生徒たちは主体的・対話的で深い学びを実現するべく、集中し、教えあい、学びあい、より深い観点で話し、発信し、取り入れ、自分の中に落とし込んでいます。午後の教科部会でも生き生きと活動している様子や、課題に主体的に取り組む様子が見られたと、感想をいただきました。



北海道アクティブ・ラーニング実践協議会

12月27日（水）には、北海道立教育研究所と、本事業の拠点校、推進校、連携校をネットでつなぎ、ライブ配信や掲示板を利用して成果の共有を行う、実践協議会に参加してまいりました。

本校の研究発表は、各会場に資料が配布できなかったため、必要と思われる方は、旭川東高等学校教務部尾村まで、お知らせください。今後も協力して、学習・指導方法改善の研究に努めたいと考えております。

Mail:kozy-omura@hokkaido-c.ed.jp